

報道関係各位

平成27年3月30日

**平成27年度 道総研の主な新規課題について**

地方独立行政法人北海道立総合研究機構（道総研）では、平成27年度より以下の新規研究課題に取り組みます。

**■戦略研究：道の重要な施策等に関わる分野横断型の研究（H27-31）**

課題名	研究の概要
素材・加工・流通技術の融合による新たな食の市場創成	民間・消費者ニーズを反映した食品開発アイデアを起点とし、道総研技術シーズを融合した連携協働体による多角的な商品開発を進め、「技術を軸にした新しい食産業連携モデル」を提示する。また製品基本価値の向上とその流通量の拡大戦略により、新たな食の市場の創成、北海道食産業の振興に寄与する。
農村集落における生活環境の創出と産業振興に向けた対策手法の構築	人口減少・高齢化が進む農村集落を主な対象として、暮らしと産業の好循環による地域の安定的な維持・発展を図るために、生活環境の維持・向上と産業振興を支援する手法を開発する。

**■重点研究：実用化、事業化につながる研究や、緊急性の高い研究（H27-29）**

課題名	研究の概要
土壌凍結深制御技術を応用した畑地の理化学性改善による生産性向上 ○北見農業試験場・十勝農業試験場	土壌凍結が作物生産にプラスの効果を発揮するための諸条件を解明し、改善目的・対象作物に応じた凍結深制御により、畑地の理化学性改善と生産性の向上に資する。
樹木内部欠陥を非破壊測定する装置の開発 ○林業試験場・工業試験場	緑化樹の腐朽等の内部欠陥について、現場での非破壊診断を可能とする新たな「樹幹内部欠陥診断装置」を開発し、北海道の緑化樹産業における樹木腐朽等のリスクの低減を図る。
道産カンバ類の高付加価値用途への技術開発 ○林産試験場・林業試験場	道産広葉樹の中で資源の安定しているカンバ類から、高価値な用途に利用できる材料を製造する技術を開発し、さらにそのための材の収集方法と、内装材や家具などへの利用方法について提案する。
カラマツ中大径木による心持ち平角材の利用拡大技術の開発 ○林産試験場・北方建築総合研究所	カラマツ心持ち平角材を品質の確かな梁・桁として利用するための乾燥・加工技術と、併せてその利用推進に向けた各種住宅技術の開発を行い、道産材の戸建住宅や共同住宅等への利用促進を目指す。
じゃがいもの自動芽取り・傷み除去システムの開発 ○工業試験場	ロボットを使用したじゃがいもの芽や傷み等の不用部除去システムを開発し、じゃがいも加工工程の省人化と生産性の向上を図り、道内食料品製造業の国内外市場競争力強化に貢献する。
積雪寒冷地におけるコンクリート劣化の分析評価技術の開発 ○工業試験場・北方建築総合研究所	積雪寒冷地におけるコンクリート構造物の凍害・塩害による劣化を定量的に評価することのできる新たな分析評価技術を開発し、道内企業のコンクリート構造物検査分野への新規参入を促す。
魚貝類の加工・保存に伴う「におい」発生要因の解明と抑制技術の開発 ○食品加工研究センター・中央水産試験場・網走水産試験場	魚貝類の加工・保存中に生成する「におい」発生要因の解明と抑制技術を開発し、道産魚貝類の最大の強みである「高鮮度」を生かした食品づくりを行い、道産水産食品の競争力強化・消費拡大に貢献する。
発酵食肉製品の新たな製造技術の開発 ○食品加工研究センター	発酵微生物の活用と工程の改善により、美味しさの向上に加え、製造期間を短縮する発酵食肉製品の新たな製造技術を開発し、道産発酵食肉製品の競争力強化、輸入代替や消費の拡大を目指す。
日本海沿岸域における過去最大級津波の復元 ○地質研究所	13世紀と1741年の北海道における最大級の津波について、日本海沿岸域の浸水範囲を明らかにし、浸水実績図を作成する。実績図は浸水予測の見直し作業に使用するとともに地域自治体の防災行政での活用を図る。

**お問い合わせ先**

北海道立総合研究機構本部 研究企画部 主幹 山口 幹人  
札幌市北区北19条西11丁目  
TEL：011-747-2809 FAX：011-747-0211  
Email：yamaguchi-motohito@hro.or.jp

## ＜参考＞ 平成27年度 主な継続課題

### ■ 戦略研究：道の重要な施策等に関わる分野横断型の研究（H26-30）

課題名	研究の概要
地域・産業特性に応じたエネルギーの分散型利用モデルの構築	地域が有するエネルギー資源を詳細に調査・分析し、有効に活用するための要素技術開発を行って、その地域に最適なエネルギー利用モデルの構築と提案を行う。

### ■ 重点研究：実用化、事業化につながる研究や、緊急性の高い研究（H26-28）

課題名	研究の概要
冬季の道産葉菜類供給強化に向けた無加温ハウス生産流通体系の確立 ○道南農業試験場・上川農業試験場	葉菜類の耐寒性および低温伸長性を明らかにし、道南地域と上川地域で冬季栽培可能な品目選定と作型開発を行う。また、品質について府県産との比較を行うほか、現地実証により経済性および市場性を評価する。
たまねぎ新品種「ゆめせんか」の加工特性解明と高品質安定生産技術確立による需要促進 ○北見農業試験場・十勝農業試験場	「ゆめせんか」の加工上の優位性を明らかにするとともに、栽培法改善による生産性の向上を図る。さらに、長期貯蔵中の内部品質変化の把握と、加工メーカーによる加工適性評価および新製品の試作を行う。
サケ稚仔魚の原虫病総合的予防技術の開発 ○さけます・内水面水産試験場	放流用サケ稚魚の飼育過程で発生する原虫病への予防対策の充実強化を図るため、道内における原虫病の実態把握、原虫病の発生機構解明および予防抑制技術の開発を行う。
林業用優良種子の安定確保に向けた採種圃整備指針の策定 ○林業試験場	北海道の主要造林樹種であるカラマツ、グイマツ雑種F1、トドマツについて、採種圃の整備・造成を促進させるため、造成適地を選定するとともに、必要面積・適正面積の評価を行い、採種圃整備指針を策定する。
早生樹「ヤナギ」を活用した高品質シイタケの安定生産システムの開発 ○林産試験場	早生樹「ヤナギ」のおが粉をシイタケ菌床栽培に利用して、高品質シイタケを安定栽培する技術を開発し、実証試験を行う。また、原料製造・供給を含めた、高品質な菌床シイタケの安定生産システム構築を図る。
成熟化するトドマツ人工林材の用途適性評価と利用技術開発 ○林産試験場、林業試験場	中大径化が進むトドマツ人工林材について、資源管理の適正化と需要拡大を図るため、材質による用途適性の把握と腐朽木の選別技術を検討するとともに、製品製造技術を開発しながら将来的な利用モデルを提案する。
北海道産小豆粉の製造とそれを活用した食品製造技術の実用化に関する研究 ○食品加工研究センター・工業試験場	製菓・製パンで活用可能な小豆粉の製造技術と保存流通技術、および菓子・パン製造技術を開発し、小豆粉の生産から流通、さらに利用に至る一連の流れを構築することにより、道産小豆の新規需要の創出を図る。
火山体内部構造・熱水流動系のモデル化と火山活動度評価手法の高度化（十勝岳） ○地質研究所	次のマグマ噴火の準備段階に入っている十勝岳において、地球科学的総合調査による火山体内部構造や熱水流動系のモデル化を行い、確度の高い噴火予測に向けた火山活動度評価手法の高度化を行う。